



おかげさまで
60周年

CSRLレポート

2013

Corporate Social Responsibility Report 2013

社会を照らす、未来を照らす

 **太陽ホールディングス株式会社**
TAIYO HOLDINGS CO., LTD.

〒176-8508 東京都練馬区羽沢二丁目7番1号
TEL: 03-5999-1511 (代表) FAX: 03-5999-1501
<http://www.taiyo-hd.co.jp>



未来が変わる。日本が変わる。
25
チャレンジ



 **太陽ホールディングス株式会社**
TAIYO HOLDINGS CO., LTD.

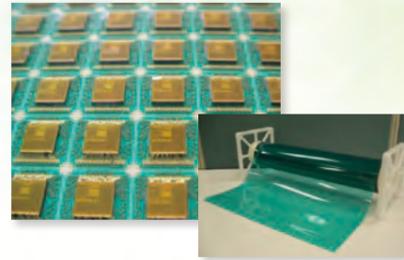
明日の地球にできること

太陽HDグループは、ソルダーレジストのトップメーカーです。
 太陽HDグループの製品は、一般の方の目に触れる機会はいくつもありますが、
 家庭やオフィス、その他生活のあらゆる場所で使用され、安全で豊かな暮らしを支えています。
 ステークホルダーから信頼され、共感される企業であり続けるために、
 これからも事業を通じ、社会の持続的な発展に貢献していきます。

主な製品



■ ソルダーレジスト
 電気製品の小型軽量化に貢献

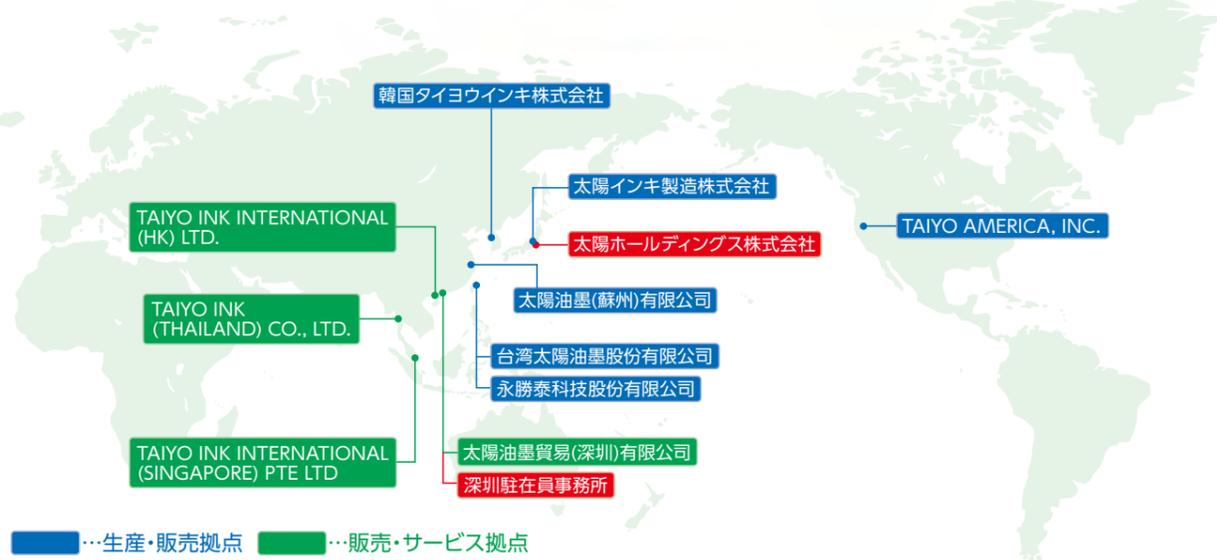


■ パッケージ基板用ソルダーレジスト
 (フィルムタイプ)
 パソコンの高機能化に貢献



■ 導電性ペースト
 タッチパネルの普及に貢献

グローバルネットワーク



プロフィール

当社は1953年に印刷用インキの製造販売会社として設立し、その後エレクトロニクス業界向けのソルダーレジストを主力製品とする事業に大転換いたしました。
 現在は商号を設立時の「太陽インキ製造株式会社」から「太陽ホールディングス株式会社」に変更し、本年4月には経営理念の改定を行うなど、常に時代にあわせて進化を続けています。しかしながら設立時の「太陽のように社会を照らし、人々の役に立つ存在でありたい」という想いはそのままに受け継ぎ、これからも皆様に愛される企業グループを目指します。

会社概要

社 名：太陽ホールディングス株式会社
 英 文 社 名：TAIYO HOLDINGS CO., LTD.
 本 社 所 在 地：東京都練馬区羽沢二丁目7番1号
 電 話 番 号：03-5999-1511(代表)
 設 立 年 月 日：1953年9月29日
 事 業 内 容：持株会社、グループ全体の経営方針策定および経営管理
 資 本 金：61億3,490万円
 従 業 員 数：連結858名/単体92名(2013年3月31日現在)

■太陽ホールディングス株式会社 本社

〒176-8508 東京都練馬区羽沢二丁目7番1号

■太陽ホールディングス株式会社 嵐山事業所

〒355-0222 埼玉県比企郡嵐山町大字大蔵388番地

■太陽ホールディングス株式会社 深圳駐在員事務所

Room13, 23F, Kerry Center, Renminnan Road, Shenzhen

生産・販売拠点

■太陽インキ製造株式会社

〒355-0215 埼玉県比企郡嵐山町大字平澤900番地

■台湾太陽油墨股份有限公司

No.7 Ta Tung 2nd Road, Kuan-Yin Industry Park, Taoyuan, Taiwan R.O.C.

■韓国タイヨウインキ株式会社

1058-8, Singil-dong, Danwon-gu, Ansan-City, Gyeonggi-do, Korea

■太陽油墨(蘇州)有限公司

No.26 Taishan Road, Suzhou New District, Suzhou City, Jiangsu, P.R.China

■TAIYO AMERICA, INC.

2675 Antler Drive, Carson City, NV89701, U.S.A.

■永勝泰科技股份有限公司

7F., No.1, Ren' ai Rd., Yingge Dist., New Taipei City 239, Taiwan R.O.C.

販売・サービス拠点

■TAIYO INK INTERNATIONAL (SINGAPORE) PTE LTD

171 Chin Swee Road #11-07/08 San Centre Singapore 169877

■TAIYO INK INTERNATIONAL (HK) LTD.

Room703, 7/F, Silvercord, Tower2, 30 Canton Road, Tsim Sha Tsui, Kowloon, Hong Kong

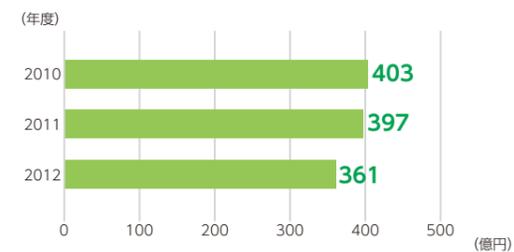
■太陽油墨貿易(深圳)有限公司

Rm1509, Office Tower, Shun Hing Square Di Wang Comm. Centre, 5002 Shen Nan Dong Road, Shenzhen, PRC

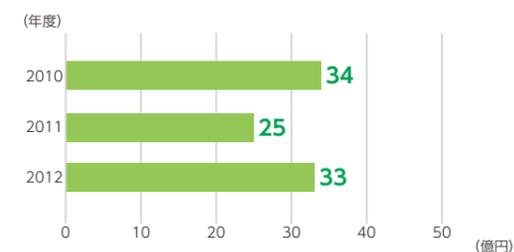
■TAIYO INK (THAILAND) CO., LTD.

1199 Piyavan Tower, 14F/Room 14C Phaholyothin Rd, Samsen-Nai, Phayathai, Bangkok 10400, Thailand

■売上高の推移(連結)



■当期純利益の推移(連結)



CONTENTS

- 03 トップコミットメント
- 03 会社沿革
- 05 特集：「グローバル企業としての成長を促す人材の採用と育成」

マネジメント

- 07 2012年度CSR活動の実績と今後の目標
- 08 経営理念とCSR理念
- 09 コーポレートガバナンス
- 09 コンプライアンスに関する取り組み
- 10 リスクマネジメントに関する取り組み

社会性報告

- 11 株主の皆様との関わり
- 12 お客様との関わり
- 12 お取引先との関わり
- 13 地域・社会との関わり
- 15 社員との関わり

環境報告

- 17 環境方針と環境マネジメントシステム
- 17 高品質と高効率を目指した人と地球環境にやさしい工場
- 19 事業活動と環境との関わり
- 20 環境保全活動
- 21 法規制測定データ集

編集方針

本レポートでは、太陽ホールディングスグループ(以下、太陽HDグループ)の人材教育についてご紹介し、続けて「マネジメント」「社会性報告」「環境報告」の3章を柱に構成しています。また、専門的でわかりにくい用語については、「用語解説」を設け説明しています。

対象期間・対象範囲

対象期間は、2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)です。対象範囲は、太陽ホールディングス(以下、太陽HD)本社ならびに21、22ページに記載の太陽インキ製造(以下、太陽インキ)、太陽HD嵐山事業所のマネジメント・社会性・環境の3側面における活動です。対象期間が異なる場合は、該当箇所に別途記してあります。

発行年月

2013年6月(次回予定:2014年6月)

「新たな事業の創出」で社会的責任を果たす、 太陽HDグループの新たな課題は「自律型人材の育成」



代表取締役社長 佐藤 英志

新しい経営理念のもと、さらなる成長を目指します

当社は本年9月をもちまして会社設立60周年を迎えます。今日、私たち太陽HDグループがここまで成長できたのも、ひとえにお客様、株主の皆様、そしてすべてのステークホルダーの皆様の日頃からのご支援の賜物と存じ、心から感謝申し上げます。

当社は昭和28年に設立し、昭和51年にエレクトロニクス業界向けのソルダーレジストを主力製品とする事業の大転換を行いました。当社にとって社運を賭けた決断でしたが、この決断を支えたのは、当社の「技術」に対する自信と「モノづくりを通じて社会に貢献する」という思いでした。

そして本年4月には、さらなる成長に向け、当社グループの「あらゆる技術」を高め、革新的な製品を創出し、夢ある様々なモノをグローバルに生み出す、そして楽しい社会を実現することこそが、社会の持続的発展を目指すCSRの基本であり、当社グループの存在意義であるとの思いを込め、経営理念を再定義いたしました。

「自律型人材の育成」と「新規事業の創出」

私たちの次なる目標として設立100周年を視野にいれ、これからの40年をさらに成長し続ける企業グループとなるため、「自律型人材の育成」と「新規事業の創出」を重要な成長戦略といたしました。

「自律型人材」とは、自ら目標を定め、その実現を楽しむような人材であると定義し、社員一人ひとりの自律した考えや行動、そして自らの目標を仕事を通じて成し遂げたいという強い思いが、太陽HDグループの持続的な成長につながるものと確信しています。

また、研究開発体制の整備を行い、製品化にとらわれない中長期的な研究に特化した研究チームと、実用化に向けた新技術の開発や既存技術の応用を行う開発部門を設置いたしました。これにより基礎研究の成果を新製品の開発へ結び付ける力を高めます。また製品化の目的が立ったところで、専属チームを組織し、新製品の事業化に専念できる環境を整えることで、迅速に事業化いたします。

「スピード&コミュニケーション」をキーワードに

自律型人材の育成と新規事業の創出に加え、「スピード&コミュニケーション」を当社グループのキーワードと考えています。グループ内各社の連携と全員のチームワークを活性化することで、企業総合力を高めていくとともに、引き続き、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの充実を図っていきたく考えています。

また、世界中で事業活動を行っている当社グループでは、CSRの裾野を世界中に広げ、それぞれの地域社会で求められ、受け入れられる独自の取り組みを数多く行う、そのようなグループ環境にしていきたいと考えています。

ひとつの節目を迎えた太陽HDグループでは、創業時の精神に立ち戻り、これからも世界を照らし、社会を照らす「太陽」のように人々の役に立つ存在であるために、太陽HDグループの成長を通じて社会的責任を果たしていきます。

2013年6月

会社沿革

<p>1973~ 無臭性ソルダーレジスト お客様の作業環境改善に貢献</p> <p>UV硬化型ソルダーレジスト お客様の省エネに貢献</p>	<p>1984~ アルカリ現像型ソルダーレジスト 電気製品の小型軽量化に貢献</p> <p>1993~ パッケージ基板用ソルダーレジスト パソコンの高機能化に貢献</p>	<p>2005~ 導電性ペースト タッチパネルの普及に貢献</p>	<p>2009~ 白色ソルダーレジスト LEDの普及に貢献</p>	<p>2013~ VEGETABLE OIL INK IJPR-4000V series 資源の確保および環境保護に貢献</p>
<p>1953 設立</p> <p>1960 1967 公害対策基本法制定</p>	<p>1972 JPCA Show 初出展 1975 経営理念、経営基本方針策定</p> <p>1970 1970 日本万国博覧会（大阪万博）開催 1971 環境庁発足 1973 第1次石油危機 1978 NOx※1環境基準改正 1979 省エネ法施行、第2次石油危機</p>	<p>1988 海外進出第1号（韓国）</p> <p>1980 1980 消費者生活アドバイザー制度スタート 1987 ISO9001制定 1988 IPCC※2設立</p>	<p>1990 株式会社公開 1993 品質管理委員会発足 1995 ISO9001 認証取得※3 1998 環境管理委員会発足</p> <p>1990 1991 日本経団連「企業行動憲章」制定 1992 地球サミット開催 1993 環境基本法制定 1995 容器包装リサイクル法制定 阪神・淡路大震災 1996 ISO14001 制定 1997 京都議定書の採択 1998 温暖化対策推進法制定 1999 ダイオキシン対策法制定、PRTR 法制定</p>	<p>2000 リスクマネジメント委員会発足 ISO14001 認証取得※3 2001 東京証券取引所第一部上場 2003 倫理・法令遵守理念制定 環境報告書第1号発行 倫理委員会発足 2004 BCP 構築 2007 情報セキュリティ委員会発足 2008 CSRレポート第1号発行</p> <p>2000 2000 環境会計ガイドライン公表 2001 環境省発足、家電リサイクル法施行 2003 RoHS 指令採択 2004 新潟県中越地震 2005 日本国際博覧会（愛・地球博）開催 2006 公益通報者保護法制定 2008 改正金商法で内部統制義務化 2009 COP15 開催</p>
	<p>公害問題に起因する企業不信</p>	<p>石油ショック後に省エネ意識高揚</p>	<p>バブル景気</p>	<p>地球温暖化問題</p>
			<p>バブル崩壊と企業倫理問題</p>	<p>世界的金融危機と政権交代</p>

グローバル企業としての成長を促す 人材の採用と育成

太陽HDグループは、世界で活躍できる人材を「世界」から採用し、教育と実践を通じてたくさんの自律した社員を育成して会社をより活性化することにより、楽しい社会の実現を目指します。

採用

日本の取り組み

新卒採用

就職サイトの活用に加え、国公立および有名私立大学での合同会社説明会を通じて、当社グループの魅力を直接伝える採用活動を開始しました。また、



入社式の様子

外国人留学生も積極的に採用するなど自律型人材*の採用に力を入れています。

*「自分で考えて目標を決めて行動できる人材」を「自律型人材」と定義している

海外新卒採用

一昨年より、海外グループ会社の協力を得て、海外採

用を開始しました。2012年10月に中国難関大学から理系新卒2名が入社し、現在国内で勤務しています。海外新卒学生には、「世界で活躍したい」という強い意志と勤勉さがあり、当社の将来を担うことを期待しています。

中途採用

国籍を問わず、人材紹介会社の協力を得て、優秀な即戦力人材の採用に注力しています。また、海外グループ会社の採用にも支援を行いました。

海外グループ会社の取り組み

海外グループ会社では、各国の状況に応じた採用活動を行っています。その結果、現地採用人数は各社合計500名を超えています。

育成

日本の取り組み

階層別教育

経営層、管理職層、中堅層、若者層に分けた研修を開始し、階層に即した教育により自律型人材の育成を行っています。

■経営層

取締役の基本教育、戦略策定のためのコーチング教育、著名人による講演会（管理職層も参加）等を開催し、判断力・推進力の向上を目指した教育を行っています。



新任取締役研修の様子

■管理職層

部長、課長に公開講座(3日間程度)に参加してもらい、的確な判断力・統率力の向上を進めています。



管理職対象の研修の様子

■中堅層

自らを見つめなおし、今後取り組むべき目標付けを明確にする研修を進めています。

■若者層

一昨年より、社会人としての幅広い基礎知識を学ぶため5日間の研修会を行ってきました。2012年度は、この



BBS研修(若手社員を対象としたビジネスの基礎知識に関する研修)の様子

基礎知識を生かして経営シミュレーションを行い、培ってきた知識をより深く定着させ、応用できる研修を実施しました。

その他の研修

■ものづくり研修

当社は製造業のため、ものづくりが基本です。このものづくりに携わる社員を対象に、ものづくりの各工程を体験してもらい、いつもと違う発見、気づきを促す研修を実施しました。



ものづくり研修の様子

■経営者と社員の対話

選抜された社員が参加し、経営や当社の将来について社長と直接ディスカッションを行う機会を提供しました。経営方針の理解を深め、疑問や不安の解消ができ、参加した社員が経営をより身近に感じられるようになりました。

■研修の効果

それぞれの研修に、複数の部署から社員が参加することで多様なコミュニケーションが生まれ、社員同士・他部署間での理解が進みました。また研修への参加を機会に、新しく勉強を始める社員が始めています。多くの研修に社長が自ら参加し、社員それぞれの意見に耳を傾けて意見交換することにより、おのおのの理解が深まりました。

海外グループ会社の取り組み

今回は、太陽蘇州*、台湾太陽*の取り組みをご紹介します。

太陽蘇州の取り組み

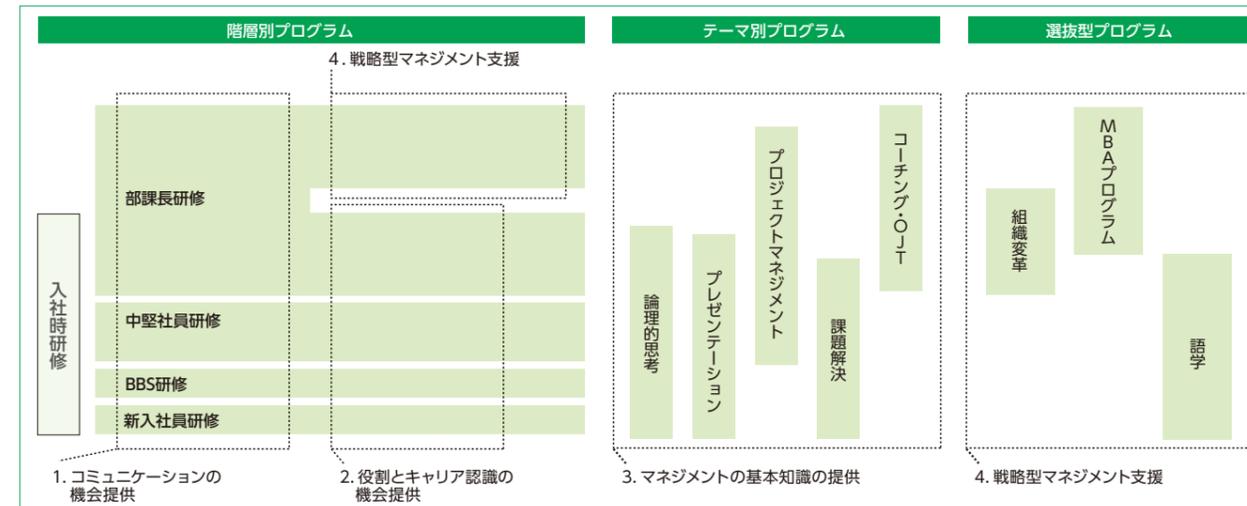
太陽蘇州では、階層別教育を行っています。現場や階層に即したスキル教育を中心とし、その他に公的資格取得、労働安全、日本語等の専門教育を推進しています。

台湾太陽の取り組み

台湾太陽では、ISOを中心とした教育や、階層別教育、日本語教育が行われています。また、それぞれの業務に即したスキルアップ教育も実施されています。

*太陽蘇州:太陽油墨(蘇州)有限公司、台湾太陽:台湾太陽油墨股份有限公司

● 研修体系



*プログラム内容には、今後実施される予定のものも含まれている

今後の展開

事業の世界的な広がりのなかで、今後の教育は、海外グループ会社とのコミュニケーションを促進して海外で活躍できる人材の育成を推進するとともに、その地域・風土に即した人材育成を発展させていきたいと思えます。また、自律型人材の育成をより強化し、世界に楽しさを発信できる人材を育てていきます。

2012年度CSR活動の実績と今後の目標

「CSR理念」と「行動規範」に基づき、2012年度の主な活動実績と、2013年度の課題・目標についてまとめました。個々の取り組みの詳細につきましては、各掲載ページをご覧ください。

☺: 目標達成 ☹: 着手したが未達成 ☹: 未着手

取り組み項目	2012年度の課題・目標	2012年度の主な活動実績	評価	2013年度の課題・目標	掲載ページ
内部統制システム	●システムの有効性と効率性の向上	●一部業務プロセスを見直し、有効性を向上 ●内部統制業務全般の運用について効率性を向上	☺	●システムの有効性と効率性の向上	P9
コンプライアンス	●社員教育による倫理法令遵守に関する啓蒙活動の継続推進 ●リスク調査結果の対応 ●ガイドラインの見直し ●海外グループ会社を含めた太陽HDグループE&Cシステムの調査	●管理職を対象にハラスメント研修を実施 ●リスク調査の結果に基づき、各本部長単位でE&C社員教育を実施 ●E&Cガイドラインを見直し、2013年4月1日付け改訂発行	☹	●社員教育による倫理法令遵守に関する啓蒙活動の継続推進 ●ホットラインの運用見直し ●E&Cの活動状況を社内に向けて発信する ●海外グループ会社への展開を進める	P9
リスクマネジメント	●被害想定を変えた防災訓練を実施	●大地震が発生した想定で、日本の三事業所合同の防災訓練を実施	☺	●被害想定を変えた防災訓練を実施	P10

社会性報告

取り組み項目	2012年度の課題・目標	2012年度の主な活動実績	評価	2013年度の課題・目標	掲載ページ
株主・投資家の皆様	●継続的な安定配当を実施する ●ホームページ、CSRレポート、アニュアルレポートなどにより適切な情報開示を行う	●1株あたり90円の配当を継続実施 ●ホームページ、CSRレポート、アニュアルレポートなどにより適切な情報開示を行う	☺	●継続的な安定配当を実施する ●ホームページ、CSRレポート、アニュアルレポートなどにより適切な情報開示を行う	P11
お客様	●粗粒対策を最優先に「工程改善」「検査規格見直し」「製品開発」を推進する	●開発本部-生産本部共同で、粗粒対策を目的とした「工程改善」「検査規格見直し」「製品開発」を実施。粗粒対策品を製品として登録した	☺	●粗粒対策および製品品質を高めるために「工程改善」「検査規格見直し」「製品開発」を推進する ●プロセス監視および意識付けにより異常品の流出防止と発生の未然防止を推進する	P12
お取引先	●CSR調達ガイドラインを作成する	●情報収集にとどまる	☹	●CSR調達ガイドラインを作成する	P12
地域・社会	●太陽HDを含めたガイドラインに見直す	●太陽HDを含めたガイドライン作成に着手	☹	●太陽HDを含めたガイドラインを作成し運用を開始する	P13~14
社員	●ニーズの調査結果より対策を実施するための事例などを確認し、大枠の展開案を作成する	●調査準備を開始したが未実施	☹	●調査を実施し、展開案を決定して、実施準備を完了する	P15~16

環境報告

取り組み項目	2012年度の課題・目標	2012年度の主な活動実績	評価	2013年度の課題・目標	掲載ページ
環境活動	●前年度の電力使用量の実績に基づき、その維持を図る	●クールビズ、ウォームビズを実施 ●電力デマンド監視機器を使用し、電力量のチェックを実施	☺	●前年度の電力使用量の実績に基づき、その維持を図る	P17~22

経営理念とCSR理念

経営理念に基づき、CSR理念と行動規範を定めて事業活動に取り組み、企業の社会的責任を果たしていきます。

経営理念

我がグループの「あらゆる技術」を高め、革新的な製品をもって、夢あるさまざまなモノをグローバルに生み出し、楽しい社会を実現します。

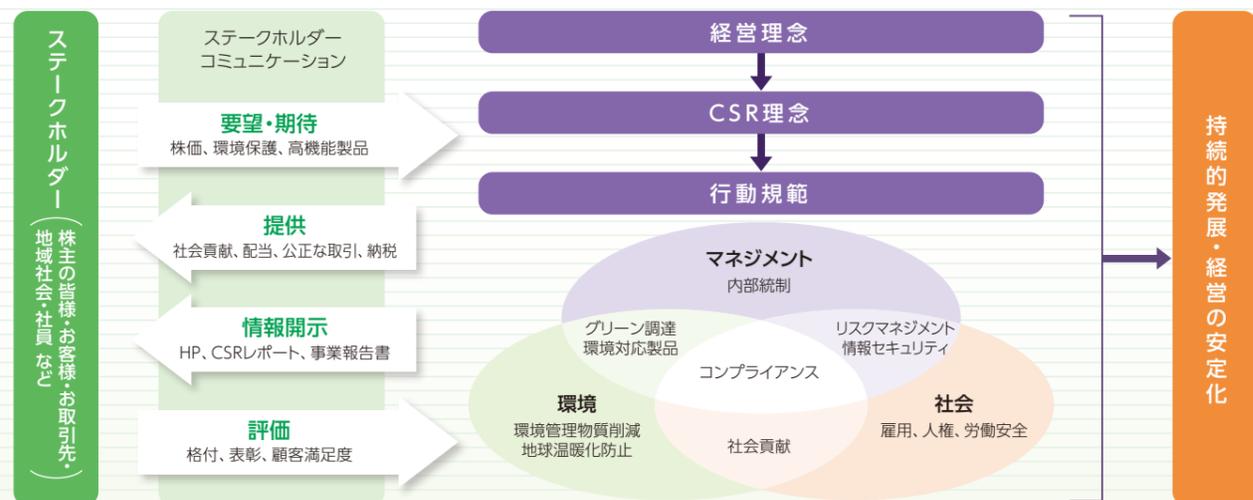
CSR理念

わが社は法令遵守、環境保護、品質管理の徹底、社会貢献を含め企業の社会的責任を全うします。

行動規範

CSR理念を実現させるために、次の各項を定め行動します。

- 1. 倫理・法令遵守** 私たちは、事業活動にあたって法令その他の社会的規範を遵守し、その精神を理解して公平かつ公平に行動します。
- 2. 職場の環境** 私たちは、社員の人権を尊重し、公平で差別のない職場をつくります。
- 3. 公正な取引の実施** 私たちは、全ての取引先に誠意をもって接するとともに公平かつ適正な取引条件を設定し、事業活動を行います。
- 4. ステークホルダーの尊重** 私たちは、常に全てのステークホルダー(利害関係者)の立場を尊重し事業活動を行い、また、開示すべき情報は適時・適切に公表します。
- 5. 秘密の保持** 私たちは、取引先の秘密情報、自社の秘密情報ならびに個人情報に漏洩しないように管理を行います。
- 6. 品質の確保(品質方針)** 私たちは、お客様に満足していただける品質と安全性を確保し提供します。
- 7. 環境の保全(環境基本理念)** 私たちは、社会的責任遂行の一環として地球環境保全に努め、環境と調和した事業活動を行います。
- 8. 社会貢献活動** 私たちは、社会の一員として社会貢献活動を行います。
- 9. 知的財産権の尊重** 私たちは、創作または保有する知的財産権を適切に保護するとともに第三者の知的財産権も尊重します。
- 10. 反社会的勢力の排除** 私たちは、反社会的勢力に対し、不法・不当な要求には一切応ずることなく、毅然とした態度を貫きます。



コーポレートガバナンス

経営の透明性を確保して説明責任を果たし、健全な会社運営を行うために、「取締役会」と「監査役会」を中心とした体制を構築しています。

コーポレートガバナンス体制

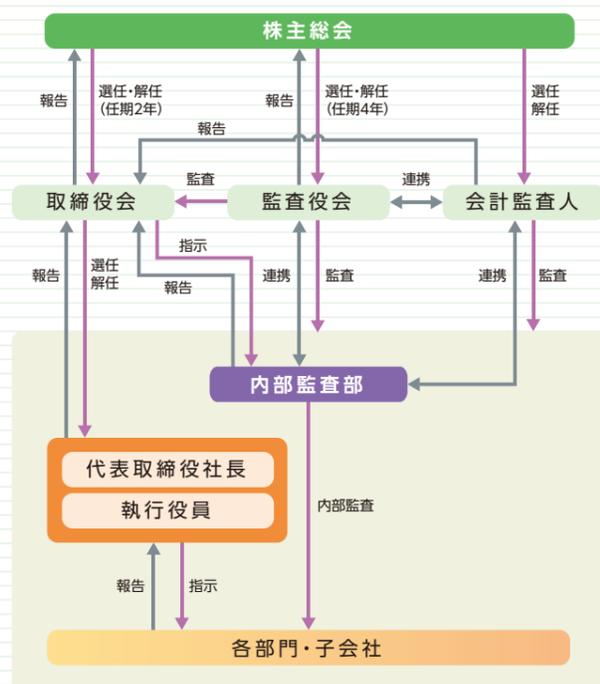
社会から信頼される企業として存続するためには、効率的な業務執行体制を構築するとともに、経営の透明性、健全性を高めることが重要と考えています。経営環境の変化に迅速に対応できる執行とその監督の体制を整え、グループ経営全般にわたる、企業価値の向上を図っています。

内部統制システム

2011年度における内部統制評価については、重大な不備や欠陥などはありませんでした。

2012年度は、業務プロセスなどの改善により、統制機能の強化を図りながら業務の効率化に取り組み、効率的に機能していることを内部監査で確認しました。今後は、財務報告の範囲にとどまらず、広い範囲で内部統制をとらえ、さらなるリスクの軽減と内部統制システムの強化を図っていきます。

■コーポレートガバナンス体制図



コンプライアンスに関する取り組み

私たちは、法令その他の社会的規範を遵守し、公明かつ公正な活動を行い、社会から信頼される企業を目指します。

コンプライアンス活動

当社は、倫理・法令遵守システムを構築し、コンプライアンス・マニュアルをはじめ、各関連規程を整備するとともに、業務のなかで遵守すべき基準としてガイドラインを設け、その趣旨を理解し、活動しています。

2012年度は、昨年度実施したコンプライアンスリスク調査の結果をもとに、抽出された各本部単位のリスクに対し対策を講じました。また、社員一人ひとりが遵守すべき基準を定めた『E&Cガイドライン』の内容を見直し周知しました。

コンプライアンス教育

社員のコンプライアンス意識の向上のため、外部講師を招き、管理職ならびにE&C推進組織メンバーを対象にハラスメント研修を行い、働きやすい職場環境の維持に努めました。また、倫理担当チームメンバーを対象に、企業法規ならびにコンプライアンス活動の重要性について外部セミナーを受講しました。

このほか、社内ホットライン（相談窓口）の担当者教育も定期的実施しています。



ハラスメント研修

リスクマネジメントに関する取り組み

事業活動に伴い発生する様々なリスクに対して、適切な対応措置の検討、整備を行ってまいります。

知的財産の保護

太陽HDでは、当社グループが創作し、または保有する知的財産を適切に保護するとともに、第三者の知的財産も尊重するため、主に以下のような取り組みを行っています。

(1) 知財戦略会議の開催

研究・開発・営業部門と知的財産部門とが、知財戦略について審議し、社内外の知財に関連する情報を報告する場として、毎月知財戦略会議を開催しています。

(2) 自社知的財産の保護

■(a) 特許権

ソルダーレジスト等の配線板関連材料や、ディスプレイ関連材料等の主力製品に関して創作した発明等は、主要国に出願して権利化を図り、特に有力技術に関する発明等については、各国の早期審査制度を積極的に利用して早期権利化を行い、権利の戦略的活用を図っています。

■(b) 商標権

当社グループのブランドを適切に保護するため、主要国での権利化を図り、特に中国での模倣品については、定期的な調査を実施し、必要に応じ適切な対応をとっています。また、国内外での当社グループの社標、商標の使用に際し、リスクを低減するとともに、保有商標を活用できるようガイドライン等の策定を進めています。



日本の特許証 韓国の特許証 米国の特許証

(3) 第三者の知的財産の尊重

現行製品について、各国で定期的な特許・商標調査を実施し、第三者の知的財産を侵害しないように、チェックを行っています。また、知的財産関連の教育として、特許・商標等の産業財産権、営業秘密管理、契約管理等について、

定期的に社内教育を実施し、自社の知的財産権の保護のみならず、第三者の知的財産権の尊重等、知財マインド、リーガルマインドの向上を図っています。

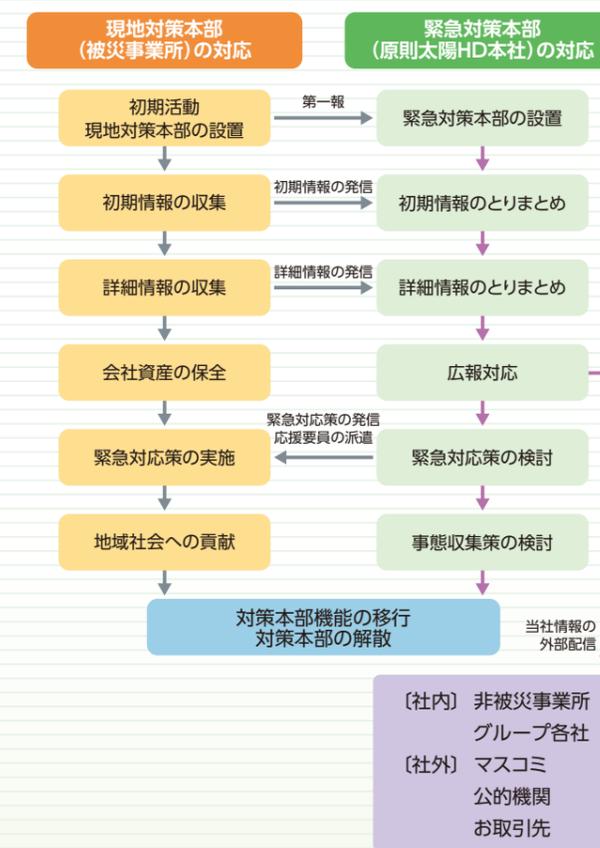
防災訓練の実施

2012年度は、国内3拠点合同の防災訓練や、地域との合同訓練を実施しました。なお、今回の防災訓練では2011年の震災時の反省を踏まえ、拠点間の通信手段の確保や外出者・休暇者の安否情報の収集など「火災・地震による緊急事態および事後の対応マニュアル」に沿った実地訓練を行いました。



地域との合同訓練の様子

■マニュアルの概要図



株主の皆様との関わり

利益の配分および適切なコミュニケーションを通じて、株主の皆様の「幸福と繁栄」に寄与します。

利益配分に関する基本方針

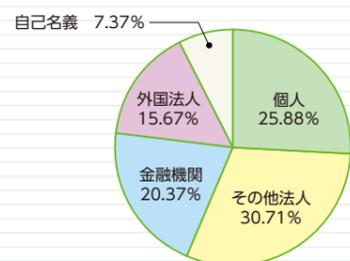
現金による株主の皆様への利益還元を重要な政策として位置付け、当社の中長期的な業績向上に必要な投資とのバランスを勘案しながら、継続的かつ安定的に高水準の配当を実施することを目指しています。具体的な配当目標指標は、「中長期的に純資産配当率(連結)5%以上」を目処としています。

2012年度については1株につき合計90円の配当を決定しました。自己株式の取得についても株価水準、需給動向などを見極めながら実施していきます。

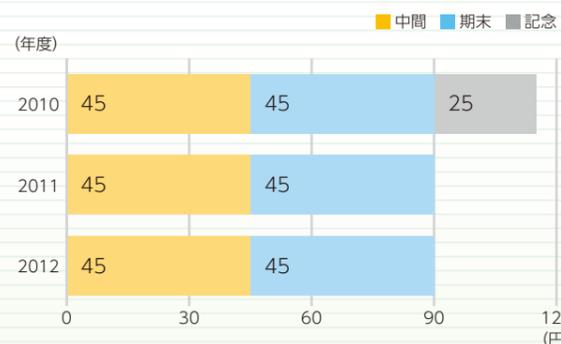
株式の状況(2013年3月31日現在)

発行済株式数	27,464,000株
株主数	7,403人

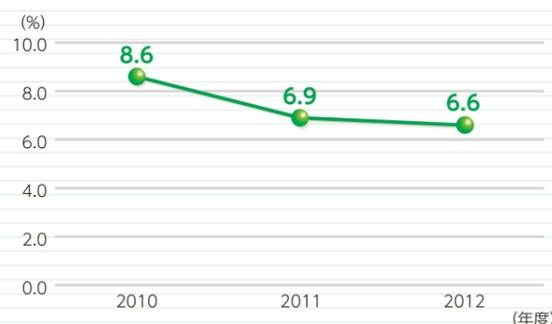
株式分布状況(2013年3月31日現在)



1株あたりの配当の推移



純資産配当率の推移(連結)



IR活動

株主・投資家の皆様に対して投資判断に有効な情報をお届けするため、正確性・公平性・迅速性を確保したIR活動を実施することを基本方針としています。

具体的なIR活動としては、アニュアルレポートの発行、自社ホームページでのIR情報提供、アナリスト・機関投資家向けの決算説明会、機関投資家との個別ミーティングなどを実施しています。特に決算説明会は決算発表と同日に行い、情報開示の迅速化に努めています。

開かれた株主総会

2012年6月27日、第66回定時株主総会を開催し、多くの株主の皆様にご出席いただきました。株主総会では、経営方針や事業概況をより深く理解していただくために、大型スクリーン映像やナレーションなどを活用した事業報告を行っています。

株主総会の模様は、オンデマンドによる配信を行い、当日参加できなかった株主の皆様をはじめ、報道関係者にも広く公開しています。また、株主総会終了後には、懇談会を開催しています。懇談会では、当社の製品が使用されたプリント配線板や電気製品をご覧いただきながら、役員や開発担当者と直接対話ができる場を設け、株主の皆様とのコミュニケーションの充実を図っています。

お客様との関わり

太陽インキではISO 9001:2008に基づいた品質マネジメントシステムを適用し、品質保証、品質管理、品質改善の活動を行い、お客様にご満足いただける品質と安全性を確保し提供しています。

マネジメントシステムの改善

2012年度は、各プロセスの目的、役割およびプロセス間のつながりをより明確にし、わかりやすく明らかなシステム構築を目指しました。2013年度はさらにこれを推し進めていきます。

生産工程情報の活用

製品の品質を「お客様の満足」ととらえて、品質の強化に努めています。

製品のインプットからアウトプットまでのチェック項目

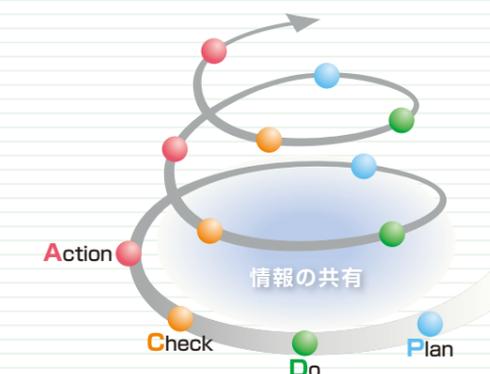
- ①受入検査Plus(安定した生産の確保)
原料受入検査の規格項目に加え、特定の原料はより精度の高い試験を行うことで製造条件の安定化に努めています。
- ②工程内チェック項目の安定化(製品検査に頼らないものづくり)
製品のでき栄えを製品検査に頼らず、工程内で品質の作り込みを行っています。
- ③製品検査(安定した製品の提供)
製品検査の規格項目に加え、より精度の高い検査を行うことにより、安定した製品をお客様に提供するように努めています。

お客様からの声の活用

お客様からの苦情情報をはじめとする様々な声を、品質改善の絶好の機会ととらえています。

お客様の声を取りこぼすことなく原因を究明し、対策を講じることで、今まで以上に質の高い製品を製造し提供できるよう日々改善に努めています。

お客様との情報共有に基づく品質改善



お取引先との関わり

グリーン調達基準に基づき、環境と安全性・品質安定性に配慮した原材料の調達を行っています。

購入先評価と立ち入り監査の実施

お取引先と信頼関係の構築・強化のためにお取引先のご協力をいただき、立ち入り監査を実施しています。

主に原材料の品質・環境への配慮・納期などの維持、向上を目的とし、お取引先の原材料、外注製品の購入先にも監査を実施しています。

2012年度は太陽インキ購買課、品質管理課、生産技術課および関係者より構成されたメンバーとお取引先の間で品質向上を目的に現状確認を行いました。

監査の実施結果

2012年度は、お取引先6社の監査を実施しました。

- ① 品質マネジメントシステムフォローアップ 1社
- ② 生産スケールアップ対応 2社
- ③ 生産工場の生産工程変更 1社
- ④ 生産工程の確認、見学 2社

お取引先のご理解とご協力により、スムーズに監査を実施し、有効性を確認することができました。なお、直接お話しできたこともお互いの相互理解と協力関係にプラスになると期待されます。

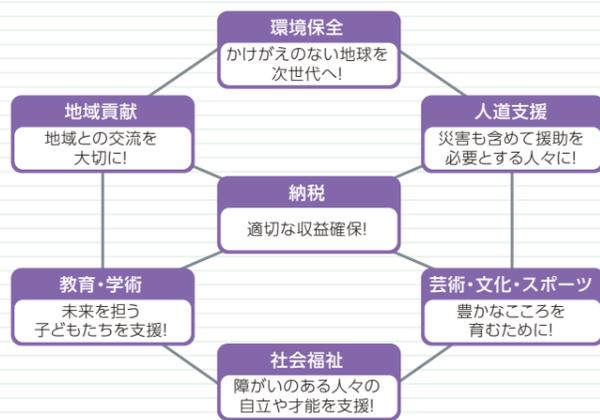
地域・社会との関わり

地域社会と地球環境との調和を目指し、企業市民として様々な社会貢献活動に、積極的に取り組んでいます。

社会貢献に対する基本的な考え方

社会の一員として、社会の発展に寄与すること。これも企業が果たすべき大切な責任のひとつです。限りある資源を次の世代に残し、関わる人の心を豊かにし、ともに成長する企業であり続けるため、太陽HDグループ各社が連携し幅広い活動に取り組んでいます。

太陽HDグループが目指す社会貢献



社会貢献活動

社会貢献意識の向上

社員とその家族によるボランティアサークル「太陽サポートクラブ」は発足から4年が経過し、より活発な活動を展開しています。活動予定、活動報告を行う「太陽サポートクラブ通信」を定期的に発行し、社員の啓蒙活動を行っています。

一人ひとりの心遣い

ペットボトルキャップを集めて世界の子どもたちにワクチンを届けることを目的とした「エコキャッププロジェクト」では、今期139.8kg、55,920個分のキャップを回収しました。

また、社内で集めた使用済み切手を社会福祉協議会に提供し、養護盲老人ホームの運営に役立てていただいています。

今後も、一人ひとりの小さな心遣いを社会のために役立てる活動を継続していきます。

エコキャッププロジェクトの概要



大規模災害被災地への支援

大規模災害などにより深刻な被害が発生した際に、少しでも現地復興の手助けになればという思いから、義援金の寄付を行っています。

東日本大震災から2年、いまだ被害の爪あとは数多く残っており、被災地では今なお不自由な生活を強いられている方々がたくさん居られます。今後も同じ社会に生きる一員として、できる限りの支援を行っていきます。

献血サポーター

近年の少子高齢化に伴う献血者の減少、輸血者の増加などにより、血液不足が深刻化しています。血液は人工的につくることのできないため、継続的な献血を行い、必要な血液を確保しておく必要があります。

太陽インキは、厚生労働省の献血推進対策に賛同し、献血サポーターとして社員へ献血活動への理解と協力を呼びかけるとともに、太陽HDグループの国内拠点に勤務する社員も毎年1回の巡回献血に協力しています。



献血風景

地域貢献活動

地域活性化への貢献

太陽HD嵐山事業所および太陽インキが位置する埼玉県嵐山町は、木曾義仲や畠山重忠など、日本史に名を残した坂東武者ゆかりの地です。その歴史と伝統を継承する文化まつり「嵐山まつり」に毎年模擬店を出店しています。

昨年に引き続き2012年度も子ども向け玩具・遊具の販売と当社PRスペースの設置を行い、地域の皆様との交流を図ることができました。

なお、当日の売上の全額は社会福祉協議会へ寄付し、社会福祉の向上に役立てていただきました。



「嵐山まつり」の様子

子どもの安全確保のための活動

社有車に「防犯パトロール実施中」のマグネットを貼付し、不審者による犯罪を抑制する取り組みを行っています。

また、太陽HD嵐山事業所および太陽インキに「子ども110番の家」の看板を設置し、緊急時には逃げ込んできた子どもを警署にて保護するなど、安心して助けを求められる体制も整えています。



社有車に防犯パトロールの表示を貼付

嵐山町成人式への協力

太陽インキ本社では、嵐山町の成人式に毎年協力しています。2012年度は、例年行っている記念品の提供以外に、会場で放映されるメッセージビデオの作成に協力しました。

実行委員となった地元の中学生が事業所を訪れ、新成人に向けたメッセージを同社社員へインタビューするという形で撮影が行われ、中



インタビュー風景

学生の社会体験の一環としても役立てています。

学校教材充実のために

将来を担う子どもたちの教育環境を整え、健やかな成長を手助けすることを目的に、埼玉県嵐山町内の公立小中学校のPTAが主催する廃品資源回収へ、事業工程から出る廃段ボールを提供しています。

2012年度は10,031kgを提供し、その収益金を小学校の池の整備、小学校で集めた国際支援物資の輸送費、卒業式や入学式のお花の費用などに活用していただきました。

環境保全活動

地域美化活動

太陽HD嵐山事業所では、課長以上の管理職10名程度の2チームを編成し、毎月交代で事業所周辺道路のゴミ拾いを行っています。以前は、かなり多くのゴミを回収していましたが、最近では少しずつ量が減っており喜ばしいことです。また、太陽インキでは、「彩の国ロードサポート」に登録し、国道254号線を中心とした清掃活動を毎月1回実施しています。

国蝶「オオムラサキ」の保護

国蝶に指定されている「オオムラサキ」が、幼虫の時期に餌として食べ、成虫して卵を産み付ける「エノキ」という樹木や、成虫の餌となる樹液を出す「コナラ」や「クヌギ」といった樹木が茂る雑木林が埼玉県嵐山町には存在します。

2012年度も太陽インキでは、敷地内にオオムラサキが越冬しやすい環境を整えるなど、町と一体となった保護活動を行いました。また、里山づくりのボランティア活動にも、社員が積極的に参加しました。



オオムラサキ

オオムラサキの越冬幼虫数の推移

(頭)

	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
越冬幼虫数	2	39	53	15

※太陽インキ敷地内で観察できた数

社員との関わり

社員一人ひとりが、個々の強みを生かし、自分の能力や適性を最大限に発揮できる職場づくりを進めています。

雇用における基本的な考え方

太陽HDグループでは、グループ全体の人員状況と成長計画を踏まえ、適正人員の維持を図っています。

国籍や性別、年齢などに関係なく活躍できる職場の提供と「ワーク・ライフ・バランス」を推進するために、社員の雇用・処遇にあたっては、仕事と家庭生活の両立支援に努めています。

■社員概況(2013年3月31日現在)

	男性	女性	合計
正社員総数*1	285人	41人	326人
正社員以外の雇用数	-	1人	1人
社員平均年齢*2	43.44歳	38.93歳	42.87歳
社員平均勤続年数*2	16.15年	14.39年	15.93年
障がい者雇用人数*2,3	2人	0人	2人
障がい者実雇用率*2,3	-	-	1.23%
再雇用人数	3人	0人	3人

対象：太陽HD、太陽インキ

※1 海外出向者を含む

※2 出向受け入れ、派遣社員は除く

※3 「障害者の雇用の促進等に関する法律施行規則」第8条の規定による

人材の育成

海外人材の育成と活用

太陽HDグループでは、グローバル化が進むなか、海外グループ会社で現地採用した社員のグループ内異動の検討や、優れた人材を太陽HDの役員として登用するなど、積極的に海外人材として活用しています。

2012年度は、2011年度に若手社員向けに行った社会人としての基本スキル研修から一歩進め、経営シミュレーションの実習を行い、知識の定着と応用を学ぶ研修を実施しました。

また、各部署より選抜された社員が参加する経営方針等について社長と直接討議する場を設けて、経営者とのコミュニケーションを深める活動を推進しました。

さらに、台湾太陽の社員を太陽HDへ出向させるなど、グループ内異動をすることで海外人材の活用を行っています。

資格取得支援制度

社員の自己啓発を促すことを目的に、「資格取得支援制度」を導入し、運用しています。2012年度に提出された資格取得報告書は、14件に上りました。

税理士、TOEIC、中国語検定、簿記検定など、自己研鑽に励む社員が増えてきました。この制度の利用によって、多くの社員がスキルアップできるよう、今後も支援を続けていきます。

■難易度別資格取得者数

難易度	S	A	B	C	D	合計
2011年度	1	1	2	7	2	13
2012年度	0	1	0	12	1	14

対象：太陽HD、太陽インキ

※難易度：Sは司法書士・公認会計士など、Aは税理士・中国語検定1級など、Bは日商簿記検定試験2級・TOEIC TEST 700点以上など、Cは産業カウンセラー・基本情報技術者など、Dは環境管理士3級・実用英語技能検定3級など、基準を当社で設定している

「次世代の育成」に寄与する支援制度

入所待機児童の問題が社会問題となっているなか、当社は、短時間勤務をはじめ、仕事と育児の両立を支援するための各種制度を整えています。

■主な支援制度

制度名	利用者数 (人)		
	2010年度	2011年度	2012年度
育児支援 育児休業制度 (満1歳に達した翌年度末まで)	1	3	5
育児支援 育児短時間勤務制度 (小学校3年生修了まで)	8	9	8
介護支援 介護休暇・介護短時間勤務制度 (延べ日数93日)	0	0	1
看護支援 看護休暇制度	45	51	56
リフレッシュ リフレッシュ休暇制度 (勤続5年ごとにリフレッシュ休暇と資金の支給)	62	64	63

対象：太陽HD、太陽インキ

社内表彰

太陽HDおよび太陽インキでは、本部戦略などの遂行に資することを目的として、会社の活動に著しく貢献した社員に対し表彰を行う制度を設けています。2012年度は、合計9件の表彰を行いました。

定年退職者の再雇用推進

太陽HDおよび太陽インキでは、満60歳の定年を迎えた社員が、その豊富な経験や技術・技能を生かして働き続けられるよう、再雇用を行っています。

今までの再雇用制度をさらに充実させ、老齢年金受給時期の延長に対応できる柔軟な制度に改善しました。具体的には再雇用条件を大幅に軽減し、定年年度ごとに再雇用期間を延長(最長65歳)して、再雇用希望者が継続就業しやすくなるようにしました。

労働災害のない職場づくり

「当社は、社内における危険を把握し、労働災害の防止と撲滅を目指します」を安全衛生スローガンに掲げ、年度単位で安全衛生委員会活動計画を策定し、その計画に基づく活動を実施しています。

安全衛生委員会は委員長、安全管理者、衛生管理者を中心に安全衛生関連法規制、社内基準の遵守を推進しています。毎月の安全管理者、衛生管理者による事業所内巡回では、潜在的な要素も含めた危険箇所の抽出、該当部署による改善を通じて職場環境の維持改善に努めてまいります。また、労働安全衛生コンサルタントの助言、協力を得て、委員会活動のレベルアップも図っています。

■労働災害発生件数の推移



※軽症A：休業日数2日未満
軽症B：休業日数2日以上4日未満
重症A：休業日数4日以上14日未満
重症B：休業日数14日以上

■作業環境測定結果の推移



※第1管理区分：管理基準未満であり、作業環境管理は適切
第2管理区分：平均は管理基準を超えない状態であり、点検・改善の努力が必要
第3管理区分：平均が管理基準を超える状態であり、作業環境管理は適切でない。点検・改善を実施し、その効果を確認する必要あり

Voice

社員の声

念願の税理士の資格を取得

学生のときから税理士資格取得のための勉強を始め、社会人となった今年、ようやく資格を取ることができました。

仕事をしながらの試験勉強は体力的にも精神的にも辛いものでしたが、努力が報われて本当に嬉しい気持ちで一杯です。

現在は税理士の知識を生かし税務業務を担当していますが、まだまだわからないことが多いのもっと実務経験を積んで早く一人前になることが今の目標です。

今回、資格取得に伴い報奨金が支給されましたので、今後は語学の勉強をしたいと思っています。



税理士資格取得者 経理財務部 林 侯次

環境方針と環境マネジメントシステム

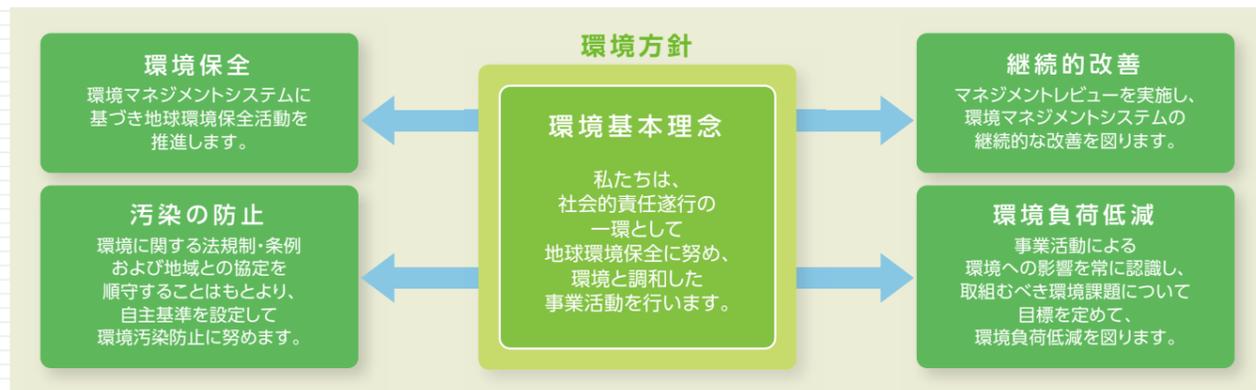
環境基本理念に基づき、環境方針を定めて内外に公表するとともにすべての経営資源を結集し、人・環境・社会が共生する「ものづくり」を推進しています。

環境活動における基本的な考え方

太陽HDグループは、CSR行動規範に「環境の保全(環境基本理念)」として「私たちは、社会的責任遂行の一環として地球環境保全に努め、環境と調和した事業活動を行います。」と定め、環境マネジメントシステムを通して人々の

安全と健康、かけがえのない地球環境を守ることが経営上の重要な課題のひとつであると認識しています。環境経営の実現に向けて、この認識を役員および社員全員と共有し、活動しています。

以下は、日本の生産拠点である太陽インキの環境基本理念と環境方針です。



高品質と高効率を目指した人と地球環境にやさしい工場

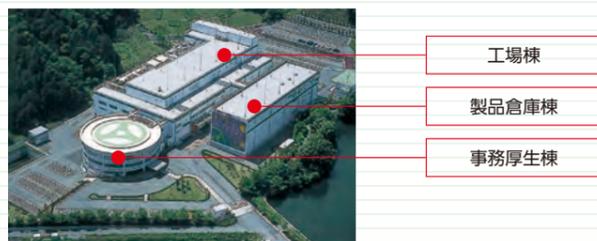
重要な環境取り組み課題として「ゼロエミッション」を掲げ、産業廃棄物の適正処理、発生抑制、資源の有効活用に取り組んでいます。

地球にやさしい工場

埼玉県比企郡嵐山町に立地する太陽インキの生産工場は、太陽HDグループの国内主力工場として2001年4月に竣工し操業を開始しました。

豊かな自然環境に囲まれた敷地内には、最先端の生産設備を導入した工場棟、正確かつ迅速な出荷作業を可能にした製品倉庫棟、事務効率の向上を推進した事務厚生棟の3棟を配置しています。

■生産工場の全景



■4つのコンセプト



4つのコンセプト

「品質の安定・向上」「生産性向上・コスト削減」「作業環境改善」「地球にやさしいクリーンな工場」という4つのコンセプト

トに基づき竣工した生産工場は、操業から10年以上が経った現在でも、太陽HDグループの品質保証体制と環境保全への取り組みの拠点であることに変わりはありません。

今回のCSRレポートでは、今後ますます関心が高まるとされる「廃棄物削減とリサイクル化」について、太陽インキの生産工場での取り組みをご紹介します。

廃棄物の管理と削減

生産工場から排出される廃棄物は、いったん廃棄物一時保管庫(以下、エコスペース)に集められ、計量・分別・保管を行うことにより最終処分量の削減を推進しています。

エコスペースで受け入れた廃棄物は手順に基づき分別され、品目ごとに以下のとおりリサイクルされます。



エコスペース

インキ類

廃棄物の約半数は主力製品であるソルダーレジストの残渣物ですが、粘度が高く固化しづらいことから一般的にリサイクルに向かない性質です。当初は廃インキをセメント精製用の助燃材としてリサイクルしていましたが、2006年からは外部へ処理を委託しています。

そこでは高温反応炉で溶融、発生した有機ガスを発電用燃料として利用し、発電した電力は施設稼働用として使用するほか、余剰電力を地域に還元(売電)することで二酸化炭素の排出抑制にも貢献しています。

金属類

排出される金属は主に原料を入れていたドラム缶やヤード缶、当社製品の容器です。ドラム缶は有価物としてリユースし、その他の容器類は缶プレス機で減容した後、外部で電炉融解し再生利用しています。

金属は比較的再生処理しやすい素材ですが、分別の徹底により、より確実なリサイクルを推進しています。

プラスチック類

廃プラスチックは金属と同様に原料を梱包していたビニール袋や当社製品の容器が多くを占めます。また、性能試験のため試作しているプリント配線板も含まれます。

ビニール袋などはRDFの原料として排出するとともに、銅が多く含まれているプリント配線板については排出先で高炉融解を行うことで、再精錬を行っています。

原料袋、段ボール、OA用紙類

原料袋はビニール袋と同様にRDFの原料として排出し、段ボールやOA用紙などは古紙回収業者へ定期的に引き取ってもらい、トイレトペーパーなどに再生されています。

■リユース・リサイクルの状況(2012年度の実績)

用途	処理内容*	排出品目	数量(kg)
リユース	再利用	空ドラム缶	99,858.0
		コンテナ	3,029.5
		木製パレット	1,584.0
マテリアル(原料化)	電炉融解	金属容器(原料・製品)	18,280.0
	高炉融解	プラスチック類	15,191.0
	古紙再生	段ボール、OA用紙等	44,660.0
サーマル(燃料化)	助燃材化	インキ類、廃アルカリ	131,923.0
	RDF加工	ビニール袋、原料袋	49,430.5
合計			363,956.0

項目	合計
総排出量	376,984.0kg
リユース・リサイクル量	363,956.0kg
リユース・リサイクル率	96.54%

(※)処理内容の説明
 用語解説
 電炉融解 …………… 電気溶解炉に投入し、金属を溶融。材質ごとに分別して再生利用する
 高炉融解 …………… 精錬工場の高炉に投入し、基板から銅を取り出し再生。プラスチック部分は助燃材として利用する
 助燃材化 …………… 各種廃油類と調合してカロリー調整。セメント焼成用の炉内に補助燃料として噴霧する
 RDF加工 …………… 圧縮固化燃料へ加工しコークス代わりに各種炉の助燃材として使用する

事業活動と環境との関わり

事業活動に伴い、どれだけの資源やエネルギーを使用(INPUT)しているか、どのくらいのCO₂や廃棄物などを発生(OUTPUT)させているかデータを把握し、分析しています。

INPUT



エネルギーの使用量は省エネ法に基づいて原油に換算した場合、電気が全体の9割近くを占め、その増減による影響が大きい。

OUTPUT



用語解説

※PRTR: Pollutant Release and Transfer Registerの略
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

環境保全活動

事業活動が与える様々な環境影響を考え、環境保全に取り組んでいます。

テレビ会議システムの拡充

太陽HDグループでは、環境保全活動の一環としてテレビ会議システムを積極的に導入しています。テレビ会議を利用することで、移動に伴うCO₂を削減するとともに、移動時間や経費削減にもつながり、業務の効率化に貢献しています。

2012年度にはすべての国内および海外拠点へのテレビ会議システムの設置が終了し、また新たに最大12拠点が一斉に接続できる多拠点接続サーバー(MCU)を導入しました。

当社グループでは、海外での事業活動が年々拡大しております。テレビ会議システムの利用は環境保全だけでなく、海外拠点との、より速く十分なコミュニケーションを実現しています。また2011年の震災直後は、拠点間の緊急連絡としてグループ内の情報共有に大きく貢献しました。

すでに日常的に利用しているテレビ会議システムですが、今後もより効果的な利用を図っていきます。



テレビ会議の様子

ウォームビズの導入

太陽HD本社では、2011年度のスーパークールビズに続き2012年度はウォームビズを導入しました。実施期間である11月から3月までは、環境省が推進している室温20℃を目安として、暖房の設定温度は22℃を超えないように設定しました。

一年を通して多くの期間がクールビズ(スーパークールビズ)およびウォームビズの実施期間となり、スーツやネクタイの着用には慣れた方は戸惑っていましたが、当社は、世の中の環境に対する要求に応じ、地球環境にやさしく、また従業員の動きやすいスタイルを積極的に導入していきます。

ウォームビズのドレスコード(服装基準)

	着用可能
上着	ジャケット、セーター、ベスト、カーディガン、インナー(タートルネック)
ネクタイ	インナー(タートルネック)の着用を考慮しネクタイの不着用を可とする。
ズボン	[男性]チノパンやツィード等の厚手生地ズボン [女性]ズボン、タイツ
靴	カジュアルシューズ、ブーツ

エコカー購入支援制度の報告

ガソリン車によるCO₂排出の削減と従業員への福利厚生の一環として、2008年4月より「エコカー購入支援制度」を実施してきましたが、2013年3月で終了しました。

当初より、当制度の運用は一定の期間としていましたが、制度開始から5年が経過し、エコカーの普及による環境保全と従業員への購入支援に一定の貢献ができたものと考えています。

今後は違う形で環境保全活動を推進し、社会に貢献していきます。

エコカー購入支援制度利用者数

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	計
利用者数	0	5	6	6	11	28

社員の声

通勤と休日にミニバンのエコカーを購入しました。ガソリンの消費も減り、環境にやさしい車ですね。

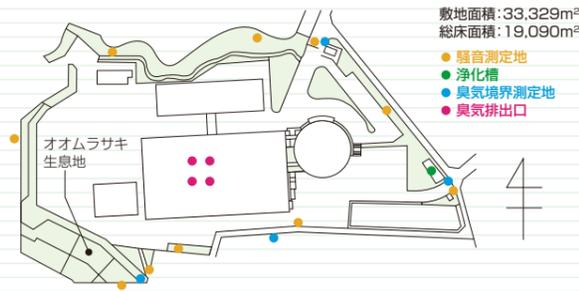


愛車とツーショット

法規制測定データ集

法規制に基づく測定を定期的に行い、周辺環境への負荷を監視することで、事業活動に伴う環境負荷の低減を図ります。

太陽インキ製造 埼玉県比企郡嵐山町大字平澤900番地



●騒音(騒音規制法^{※2}/埼玉県条例) (dB)

	測定箇所	規制値	2010年度	2011年度	2012年度
朝	東側	50以下	44	43	46
	南側		43	40	42
	西側		41	41	43
	北側		44	39	42
昼間	東側	55以下	46	46	44
	南側		49	49	48
	西側		44	45	43
	北側		46	42	42
夕	東側	50以下	45	47	44
	南側		39	44	41
	西側		39	45	41
	北側		45	48	41
夜間	東側	45以下	43	42	43
	南側		40	42	40
	西側		38	41	38
	北側		43	41	40

●社外臭気(悪臭防止法/埼玉県条例^{※1})

	測定箇所	規制値	2010年度	2011年度	2012年度	
臭気指数	敷地境界線	15以下	10未満	10未満	10未満	
	排出口	E-1011	35以下	25	24	30
		F-1001	39以下	24	22	29
		練肉脱臭設備	32以下	20	20	19
		E-1021	42以下	26	35	36

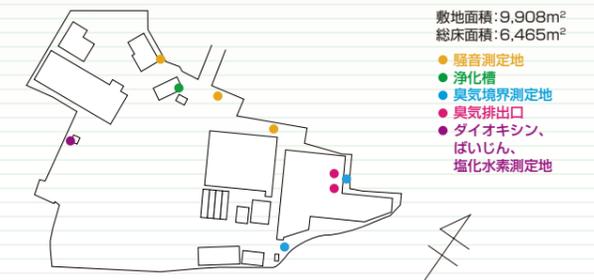
●合併浄化槽(浄化槽法・水質汚濁防止法/埼玉県条例)

	項目	単位	規制値	2010年度	2011年度	2012年度
生活環境項目	化学的酸素要求量(COD)	mg/L	160以下	9.0	9.7	8.7
	生物学的酸素要求量(BOD)	mg/L	25以下	3.3	3.5	3.5
	浮遊物質(SS)	mg/L	60以下	4.9	5.9	5.6
	水素イオン濃度	pH	5.8~8.6	7.5	7.7	7.7
	大腸菌群数	個/cm ³	3,000以下	108.1	148.5	30未満
	銅	mg/L	3以下	0.1未満	0.1未満	0.1未満
	亜鉛	mg/L	2以下	0.1未満	0.1未満	0.1未満
	溶解性鉄	mg/L	10以下	1未満	1未満	1未満
	溶解性マンガン	mg/L	10以下	1未満	1未満	1未満
	全クロム	mg/L	2以下	0.05未満	0.05未満	0.05未満
	全窒素	mg/L	120以下	21.4	17.7	16.1
	全リン	mg/L	16以下	2.1	2.1	1.9
	ノルマルヘキサノ抽出物質	mg/L	30以下	2.5未満	2.5未満	2.5未満
	有害物質	シアン化合物	mg/L	1以下	0.1未満	0.1未満
鉛およびその化合物		mg/L	0.1以下	0.01未満	0.01未満	0.01未満
六価クロム化合物		mg/L	0.5以下	0.05未満	0.05未満	0.05未満
四塩化炭素		mg/L	0.02以下	0.002未満	0.002未満	0.002未満
ふっ素およびその化合物		mg/L	8以下	0.8未満	0.8未満	0.8未満

※2012年度より測定業者変更により、測定限界値が一部変更となったので、過去実績の一部を合わせている

用語解説
 ※1 埼玉県条例：埼玉県生活環境保全条例
 ※2 騒音規制法：騒音規制に関する法律
 ※3 ダイオキシソ法：ダイオキシソ類対策特別措置法

太陽ホールディングス嵐山事業所 埼玉県比企郡嵐山町大字大蔵388番地



●小型焼却炉(ダイオキシソ法^{※3}/埼玉県条例)

項目	単位	規制値	2010年度	2011年度	2012年度
ばいじん	g/m ³ N	0.15以下	0.009	0.00765	0.01135
排ガス中のダイオキシソ	ng-TEQ/m ³ N	5以下	0.36	0.77	0.19
焼却灰中のダイオキシソ	ng-TEQ/g	3以下	0.62	0.025	0.086
塩化水素	mg/m ³ N	500以下	41.0	50.5	120.95

●騒音(騒音規制法/埼玉県条例) (dB)

	測定箇所	規制値	2010年度	2011年度	2012年度
朝	東側	50以下	47	46	46
	北側		46	44	43
	西側		47	43	45
昼間	東側	55以下	47	46	46
	北側		46	44	45
	西側		48	46	47
夕	東側	50以下	45	48	45
	北側		46	46	44
	西側		46	46	45
夜間	東側	45以下	44	45	44
	北側		43	45	41
	西側		45	44	44

●社外臭気(悪臭防止法/埼玉県条例)

	測定箇所	規制値	2010年度	2011年度	2012年度
臭気指数	技術棟排出口	40以下	24	19	22
	技術棟排出口	40以下	22	24	21
	敷地境界線No.1	18以下	10未満	10未満	13
	敷地境界線No.2	18以下	10未満	10未満	10未満

●合併浄化槽(浄化槽法・水質汚濁防止法/埼玉県条例)

	項目	単位	規制値	2010年度	2011年度	2012年度
生活環境項目	化学的酸素要求量(COD)	mg/L	160以下	17.0	11.0	2.7
	生物学的酸素要求量(BOD)	mg/L	25以下	9.0	10.3	11.5
	浮遊物質(SS)	mg/L	60以下	24.7	12.0	6.0
	水素イオン濃度	pH	5.8~8.6	7.0	7.0	7.0
	大腸菌群数	個/cm ³	3,000以下	503.4	248.7	298.0
	銅	mg/L	3以下	0.03	0.03	0.03未満
	亜鉛	mg/L	2以下	0.06	0.05未満	0.05未満
	溶解性鉄	mg/L	10以下	0.1	0.1未満	0.2
	溶解性マンガン	mg/L	10以下	0.1未満	0.1未満	0.1未満
	全クロム	mg/L	2以下	0.05未満	0.05未満	0.05未満
	全窒素	mg/L	120以下	23	19	4.1
	全リン	mg/L	16以下	2.8	2.1	0.2
	ノルマルヘキサノ抽出物質	mg/L	30以下	2.5未満	2.5未満	2.5未満
	有害物質	シアン化合物	mg/L	1以下	0.02未満	0.02未満
鉛およびその化合物		mg/L	0.1以下	0.01未満	0.01未満	0.01未満
六価クロム化合物		mg/L	0.5以下	0.05未満	0.05未満	0.05未満
四塩化炭素		mg/L	0.02以下	0.002未満	0.002未満	0.002未満
ふっ素およびその化合物		mg/L	8以下	0.2未満	0.2未満	0.2未満

※「小型焼却炉」「合併浄化槽」における実測値は、同一年度内に実施した全測定の前平均値。ただし、「未満」と記載のあるものは測定限界値以下を表す